

陳 情 文 書 表

令 2 陳 情 第 1 号	令 和 2 年 2 月 1 0 日 受 理
件 名	秦野市議会への陳情書 1（みくるべ病院近隣道路の早期完全復旧についての陳情）
陳 情 者	秦野市曾屋 9 0 6 - 3 I J N は だ の 曾 屋 寮 増 田 典 生
陳 情 の 要 旨	
<p>陳情事項</p> <p>医療法人財団青山会みくるべ病院（秦野市三廻部 9 4 8 電話 0 4 6 3 - 8 8 - 0 2 6 6）（市内 4 精神科病院の一つ）近隣道路の早期補修（完全復旧）の秦野市森林組合への取次を御願います。</p> <p>陳情の理由</p> <p>みくるべ病院は青山会の一員として三浦市の福井記念病院の傘下にあります。横浜市の関内には寿町の生活困窮者を広く受け入れる関内メンタルクリニックがあり、同系列であります。</p> <p>私が、服毒自殺未遂をし、東海大伊勢原病院より搬送され 3 カ月の医療保護入院生活をした当時は三十手前。上秦野病院といい鉄格子に包まれていました。小林秀雄院長は「人は生かされているものだ」と語り、私の自傷行為をいさめました。故・伏見忠夫看護部長は病気を患いながら献身的なボランティア看護までして下さり主治医の投薬を職権を超えて制し、私を薬害から救ってくれ、今の私があります。</p> <p>その後、東京のならず者の手に売却され、越川記念病院時代は暗黒の日々であったことでしょう。その事件を経て、縁あって日本精神神経学会会長・福井東一先生の福井記念病院の実質的な分院として、他の精神科病院で受け入れ困難な患者様や薬物依存の患者様も積極的に受け入れる人道的病院へと生まれ変わりました。</p> <p>自然に恵まれ、住民の真心に見守られ上秦野病院の思想は受け継がれています。山奥の病院への路線バスはなく、病院自前のシャトルバスのみが、渋沢駅からの唯一の交通手段です。以前豪雪時には、バスの運行が出来ず、看護師さ</p>	

んは朝・晩、病院から渋沢駅まで徒歩で通勤したとのこと。情熱的だとは思いませんか。

先般、風水害で近傍の道路が崩壊し、バスの運行に非常に危険です。早期の完全復旧の取次をお願いしますものです。これ以上、崩壊が進めば、病院と私たち患者は孤立します。投薬出来なくなれば、精神病には危機的です。地域の治安にも影響します。

※令和2年2月10日に提出された陳情書の原文のまま作成